

平成26年度ポリシーブック



JA YOUTH

平成27年3月

宗谷地区農協青年部連絡協議会

1. 地域農業と経営の諸問題

(1) 担い手対策、労働力の確保・農地集積について

□担い手対策

<現状・問題意識>

経営者の高齢化や後継者不足により将来的に経営農家が減少し、地域によっては耕作放棄地が増加する懸念がある。地域集落を支えるためにも新たな担い手(新規就農者を含め)の早急な確保が求められる。

<青年部の取り組み>

- ・農業の魅力を積極的に地域社会にアピールしイメージアップを図る。
- ・地域と連携を強化しリーダー的存在である農業者を目指す。
- ・新規就農者からの相談やバックアップができるようにする。
- ・婚活交流会や地元のパートナー協議会が主催する行事へ積極的参加を呼びかける

□労働力の確保・農地集積について

<現状・問題意識>

経営規模の大小を問わず、生産性維持、向上をはかるための労働力が不足している。収入(生産)が上がらない中で農繁期の負担が大きいことや、草地更新にかかる経費負担が大きい。

農地の集積については担い手が中長期的な見通しを立てにくい場合があることや、農地の分散化は作業効率を低下し経営の負担が発生する。

<青年部の取り組み>

- ・酪農の魅力や素晴しさが伝わり作業従事しやすい環境作り。
- ・外部委託を選択肢に入れた経営体としての判断などを検討する。
- ・他地区牧場の視察

(2) 鳥獣被害対策、自然災害について

<現状・問題対策>

近年、エゾシカ等による牧草やサイレージの食害が増え、収量の低下やサイレージの二次発酵による品質の低下の問題がある。

カラスなどの鳥類はスタックシートやロールパックに穴を開け、品質低下の原因になっているだけでなく、牛舎への直接侵入によって牛への被害や牛舎内環境への汚染など直接的な被害が発生している。

ここ数年来、異常気象による干ばつや湿害、豪雪などによる自然災害の影響で酪農家は苦勞している。

<青年部の取り組み>

- ・牛舎内環境の見直しや網の設置による侵入防止対策の徹底
- ・異常気象による自然災害の情報収集

(3) 宗青協の組織活動について

<現状・問題意識>

青年部組織では様々な事業や活動を行っているが、参加部員の拡充が十分に図られていない。一部役員への出役負担増や、一般部員への周知に乏しい場合があり、今後青年部全体を挙げての活動を必要としている。青年部活動に限らず、地域活動の縮小は将来のリーダー的存在となりうる人材育成ができなくなる。

将来に向けて地域農業の担い手として酪農産業を支えていくためには、消費者に対して食や農業に対する理解促進を地道に図っていく必要がある。

また宗谷管内に訪れる観光客や、地元住人に対してもPR活動を実施することが必要である。

また東日本大震災や東電原発事故で未曾有の被害を受けた酪農かも我々の仲間であり被災地への支援対策もともに考える。

<青年部の取り組み>

- ・宗青協主体で決める参加しやすい行事の企画
- ・新規部員を増やすための呼びかけの活動の展開
- ・部員相互での知識・技術の共有
- ・リーダーシップ研修への積極的参加の推奨
- ・地域における食育事業の取り組みを行う
- ・管内視察研修の仲介役
- ・各単組の交流を深め自分の組織に役立てる
- ・道青協と連携して被災地支援を行う(ベルマーク活動など)
- ・上川・留萌、青年部との意見交換会